

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- 1 有意義な学校生活を送るために必要となる基本的な学習習慣を身に付けるとともに、概念学習の要点や実際の取組 について理解する。学校における様々な活動の関連性に気づく。
- 2 一期生としての自覚を胸に、互いへの尊重と支え合う精神にあふれた、開かれた学習環境作りに責任をもって取り組む。学校コミュニティのすべてのメンバーと良好な人間関係を築く。
- 3 新しい学校生活に慣れ、様々な学習経験を通して肯定的な自己イメージを持つとともに、失敗は学ぶ機会であることを理解する。
- 4 他者の意見や考えに耳を傾け、理解しようとする。新しいことや難しいことにも積極的に挑戦する。

＜本年度の学力向上策＞

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を促す学習環境の工夫と整備
 - 各教科で「見方・考え方を働かせる」とする学び方を学ぶ学習指導の実践
 - 概念に基づいた探究型による指導と学習
 - 各教科におけるパフォーマンス評価の研究と実践
 - 3G Project や LDT などの生徒が主体となる時間の設定と実践
- 2 人間関係構築力を育成するための体験的な学習活動の工夫と実施
 - 円滑にコミュニケーションを図るためのスキルを毎朝の ALL English で実践
 - 各教科で「コミュニケーションスキル」「社会スキル」「自己整理スキル」の意図的な指導と実践
 - 主体的な奉仕活動の実践
- 3 一人ひとりの生徒の実態に応じ、ニーズに合った指導と学習の工夫と取組
 - ICT 環境の積極的な活用
 - 生徒が主体的に自らの学習方法の工夫・改善
 - 各教科で工夫した探究型の指導の計画と実践
- 4 様々な場面で幅広い人々と交流する機会の設定
 - 各教科の授業で発表や協議する機会の設定
 - 外部講師や外部との積極的な連携

<本年度の振り返り>

- 1 ○ 各教科で ATL(Approach To Learning)を意識した取り組みを行い、全体教科会で共有し、カリキュラムマネジメントを行いながら、教育活動を行った。
 - 発展的な問題に挑戦したり、知識・技能を活用する問題に取り組んだりするなど、最後までやり抜こうとする態度をもって、生徒は課題に取り組んだ。
 - 各教科の授業において、「わかった」、「できた」という実感を持っている生徒は、90%以上となり、満足感の高い評価となった。
- 2 ○ 他者と共に学び合う雰囲気を醸成し、教科以外の活動においても協働的な取り組みを頻繁に行うことで、コミュニケーションスキルを育むことができた。
 - 「学校に行くのは楽しいですか？」に対して、97.4%の生徒が肯定的に答え、学校での教育活動に満足している結果となった。
 - 「Service as Action」として、生徒は年間を通して外部のボランティア活動に参加し、地域に貢献するための奉仕活動を行った。
 - ▼ 「家庭学習や予習について計画的に取り組んでいるか？」に対して、4割の生徒が否定的な回答した。今後は、自ら計画を立てて学習に取り組めるように指導する。
- 3 ○ 一人ひとりの生徒にタブレットパソコンを持たせた結果として、各教科で効果的に活用していると思っている生徒は90%以上の結果となった。
 - 「学校が適切に学習を支援していますか？」に対して、90%以上の生徒が肯定的に答えた。
 - ▼ 数学の関数における基礎・基本スキルがまだ身に付いていない。今後は、改めて基礎・基本が身に付くさらなる探究型の学習の指導計画を工夫する。
- 4 ○ 「NPO フェア」や大学との連携などを通して、外部の講師や市役所や企業の専門家とかかわる機会を、多く設定したことで将来の夢をイメージし、進路指導・キャリア教育につなげることができた。